

# ミツバチと共に生きる地域作り ～継続した高校生のSDGs～



愛知県立愛知商業高等学校 ユネスコクラブ

[https://www.instagram.com/aisho\\_honeygirls/](https://www.instagram.com/aisho_honeygirls/)



愛知商業高校のユネスコクラブは、学校周辺にある名古屋近代化の歴史遺産が多く残るエリア「文化のみち」を中心とした地域活性化を目指し、2011年より「なごや文化のみちミツバチプロジェクト」を立ち上げ、校舎の屋上で都市型養蜂をスタートさせた。近くには日本庭園「徳川園」があり、それを蜜源として得られるハチミツは地域資源となり得ると期待し、「徳川はちみつ」と名付け商標登録を行った。

2012年には地元名古屋市が、東日本大震災により被害を受けた岩手県陸前高田市を支援していることを知り、力になりたいと考えた生徒達は、地元企業と共同で徳川はちみつと陸前高田市の特産品「米崎りんご」を使用したアイス「希望のはちみつりんご」を開発し、売上の一部を「陸前高田市小中学校復興基金」に寄付する仕組みを作り上げた。

その後も、徳川はちみつとガーナ産「フェアトレードカカオ」やフィリピン産「マスコバド糖」を使用したフェアトレードアイスを開発し、フェアトレードタウンなごやを盛り上げる販売活動を展開した。他にも、ミツバチの働きを子どもたちに身近に感じてもらうための絵本の発刊と読み聞かせを行い、名古屋市東区の「スモールアクションプロジェクト」においては、学校だけでなく地域の花壇と一緒に整備することでミツバチの蜜源を確保する活動を区役所に提案するなど、高校生が主体となり、ミツバチを核とした名古屋都心の取組から、生物多様性の保全と、地域経済の活性化、地域の意識の変革を促し、持続可能な街づくりの一助となっている。



ミツバチの定期点検をする生徒達



徳川はちみつを使用した生徒企画商品



校舎屋上でとれた「徳川はちみつ」



オリジナル商品販売の様子